

道のり

ずっと杖を探していた  
ようやく手に入れたが  
やはり上手に歩けない

こんなはずではなかったと  
失望を繰り返す

ある日

震える足で  
不格好に立ってみれば  
かたわらにあったのは  
杖ではなく

黙って

共に在ってくれたことに  
感謝しかない